

# おお大勝利

平成 28 年度山東サッカー部報第 14 号 (9 月 2 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## トレーナー名和さん 世界に羽ばたく SVホルンへ

今年度の部報第 4 号にて、**平成 23 年から 26 年まで 4 年間山形東のトレーナーを務めて下さった名和さん**が「アーティスト・フットボール」世界大会の日本代表のトレーナーとされた、という報告をさせて頂きました<sup>1</sup>。その名和さんから、またまたうれしい方向が届きました！

なんと名和さん、**オーストリア・フンテスリーガ 2 部の SVホルン (SVHorn) のトレーナーになることが正式に決定**されたそうです！！！！ え～、山形出身（正確には東根市羽入出身<sup>2</sup>）の方が世界に羽ばたきますか～。すごい。

山東サッカー部がお世話になるときは、名和さんはすでにトレーナー資格をお持ちでしたが、仙台の鍼灸の専門学校で鍼灸の資格を取りたいということでトレーナーの専門学校のあった千葉から山形に戻り、4 年間専門学校に通われました。その間サッカーの現場で経験を積みたいという希望があり、山形でサッカーのトレーナーとして活躍されていた**せりかわ整骨院の芹川先生**を頼ったのが縁で、山形東高校サッカー部に来て下さったのです。名和さん自体は、ティグレ東根⇒天童高校サッカー部出身であり山東サッカー部 OB ではないのですが、実は私が前任校在籍時にティグレ東根のコーチをしていた時期があり、名和さんはその時の「教え子＝選手」の一人でしたので、最初から面識はありました<sup>3</sup>。

その名和さん、的確な治療と誠実な人柄ゆえに、山東のみならず徐々に山形高校サッカー界の信頼を得て、県トレセン（県選抜）のトレーナーも複数年務めました。**でしゃばり過ぎないが専門家として言うべきことは言う**付き合い方で、私を含め県内の指導者の方から常に最高の評価を得ておりました。選手も名和さんの治療やトレーニングには絶大な信頼を寄せていました。選手が「痛くてプレーできません」と言ってくる時、指導者としては根拠もなく「我慢してやれ」とは言いづらい。そんなとき、「名和さん、・・・がこう言ってるんだけど、どう？」と訊くと、「可動域も確保されてますし、やれるんじゃないですか。あいつ痛がりなだけです。」と平然とおっしゃられ、勇気づけられて、選手に「痛くてもやれ」と強気に言ったことがしばしばありました。逆に、無理して（我慢して）プレーしようとしている選手がいると、「先生、あいつ、いま無理してやらせると（故障期間が）長引く恐れがありますよ。」などとアドバイスして下さり、「お前、痛いんだろ。やめろ。」と止めたこともありました。プレーさせられるか否か、専門的に判断してくれるトレーナーが近くにいることのありがたみを感じた四年間でした。

26 年度をもって鍼灸の資格を得たので、いよいよ就職ということで名和さんは 27 年度より横浜の治療院にお勤めになりました。ただ、スポーツの現場で働きたい希望があり、治療院でお仕事をしつつその合間を縫ってチームに帯同する活動をしておられました（アーティスト・

<sup>1</sup> 部報第 4 号末の報告では、誤って平成 24 年からと記載しましたが、正しくは平成 23 年からでした。

<sup>2</sup> 齋藤 GK コーチや「足よりも口で勝負」でおなじみ？2 年カンタの出身地区でもあります。

<sup>3</sup> 天童高校サッカー部時代も、山東に赴任した私によく挨拶してくれていました。

フットボール日本代表への協力はそんな希望の現れです)。そんな名和さん、やはり専門的に現場で仕事をし続けたい希望があたりだったのでしょうか。今年春に「海外も含めてプロチームの就職先を探してます」などと電話で話しておられました。でも、こんなにすんなり決まるとは思っていませんでした・・・ただ名和さんを知っている方なら、「名和さんなら、認められて海外に行っても不思議ではない」「名和さんならやれる」と思うことでしょう。

山東でトレーナーをして下さっている時から将来の話にはよくなり、サッカーに限らずプロチームで専属トレーナーになりたいという希望は聞いていました。その時、「名和さんがどんなに素晴らしい就職をしても、**経歴の中のこれまでの所属先（の冒頭）に山形東高校サッカー部をちゃんと入れてね**」とよく言うておりましたが、それが現実のものとなる日がやってきました<sup>4</sup>。

サッカー通の方はご存じと思いますが、**SVホルンは日本代表の本田圭佑が実質的なオーナーを務め、今年4月からは日本人監督が就任したチーム**です。日本人としてオーナーや監督とはコミュニケーションをはかりやすいでしょう。ただ、選手とは主にドイツ語で会話する必要があるでしょうから、その点で大変ですね。まあ、名和さんなら大丈夫だろうと安心していきますが。

**山東サッカー部関係者の皆さま、または、名和さんをご存じの山形県のサッカー界の皆さま、世界で活躍される名和さんを応援して行きましょう！**

## Y2B第12節 東海B戦 初の黒星

**8月27日（土）Y2B第12節東海大山形B戦**が白鷹町東陽の里グラウンドにて行われました。東海Bはリーグ前期こそ取りこぼしがありましたが、後期に入り、いよいよエンジンがかかってきた。後期3勝1敗。対する山東はここまで、後期ということは新チームになり、ということですが、2勝2分け。後期の勝ち点だけで言うと、東海Bがリーグ1位の勝ち点9（山東は8）。ということは、この試合、大げさに言えばY2B後期の頂上対決！とまあ気負って書きましたが、そんな計算をしているのは私だけ（というか部報に書くためにいま計算しただけ）。「チャンピオンチーム東海が山東新チームごときに負けられない。」同じ新人チームの東海B<sup>5</sup>からすると、こういう強い気持ちで臨んで来ると思われる。対する山東からすれば、「こちらはAチーム。Bチームに負けるわけいかない。」とこうなる。ただし、東海のような強豪チームのBチームは、他のチームにいたらAの主力の選手を抱えている。前回（リーグ前期）東海Bと対戦したときの部報第4号では以下のように書いている。「東海は、Aで負けたチームに対してBで仕返しのできる厚い選手層を誇る。AとBの力が拮抗していないと、こういうことはできない。山東では絶対にできない芸当。」

さて、そんな東海B戦、場所は白鷹町東陽の里G。すなわち人工芝。山東から小一時間の場所。昨年東根工業の跡地にも人工芝ピッチが作られたので、小一時間圏内に、明正高校・天童第二・東根・白鷹と四つの人工芝ピッチがあることになる。山形も増えてきましたね～。今年はいよいよ最北地区にも人工芝ピッチができる予定（鮭川村）。これで全地区に人工芝が存在することになる。脱線してしまいましたが、いよいよリーグ戦も残り3節を残す大詰め。たく

<sup>4</sup> 名和さんから、ホルン内定後、以前約束していた通り経歴を書きます、との言葉を頂戴しています。まあ冒頭に書くかどうかは別として。時系列的に書くとトップに来るはずですが。

<sup>5</sup> 元々2年生主体のチームでしたが、第11節より完全に新人チームで編成してきました。それまでY1にいた2年生も東海Bに組み込まれた模様（Y1で出場が5試合未満だとY2でも出場可能）。

さんの保護者の皆さまが応援に駆け付けているし、なかにはお祖父さまの姿も見える。そして**清野総監督（後援会名誉会長）、後藤報道局長、そして清野総監督と同期の工藤先輩**という「いつもの御三方」が今節もいらっしやる。

試合が始まると、試合の入りから東海 B ペース。ボールを保持される。いや、ボールを持たれるだけなら想定の範囲内でしたが、シュートまで持ち込まれることが多い。要は、**山東のディフェンスの前で「回させている」のではなく、山東のアプローチが交わされて「回されている」**。派手なことをしてくる訳ではなく、低い位置からパス回しがシンプルで（パス回しが的確で速く）、山東のアプローチが（ボールの）後追い<sup>6</sup>になっている。対する山東は、苦し紛れにボールを FW に預けようとするが、ボール（パスの質）が悪いのと FW が頑張り切れないのと東海の DF の寄せが素晴らしいのとで、まったく攻めることができない。途中、東海 GK から「(ディフェンス陣いいぞ) シュート一本も打たせてないぞ」との発言が飛び出しましたが、まさにその通り。シュートまで全然行かない。その発言には、東海 B 監督の M 川先生から「他のチームのことはいいから自分たちのこと考えろ」と指導が入りましたが、GK の発言にうそ・誇張はありませんからね。山東ベンチでも GK の言葉に「その通り」と合いの手を入れてました<sup>7</sup>。東海 B のパス回しがシンプルなのに対して、**山東は判断が遅く逐一モタモタしている**ので、そのモタモタの当人かそのパスの先で東海 B ディフェンスの網にかかっている。また「絶対ここで（ボールを）取り切る」という勢いで体を張って絡ませてくる東海 B に対して、山東の選手、極めて淡泊。何もできず前半終了。東海 B が何度もあったチャンスを外してくれたので、**ラッキーなスコアレス 0-0**。

後半も同じ。3分7分で東海 B ペース。後半の序盤の失点は免れましたが、中盤、アウトサイドからのボールをクリアした際に、アプローチが遅れ、というか誰もアプローチに行かず、**ファインボレーシュートを決められて失点**。ゴール前に人が大量にいたにもかかわらず、誰も当たりに行かないで決められる。「あいつにボールが渡ったら自分が行かなければ」という予測が足りない<sup>8</sup>。そしてその前に、クリアが小さく真中に行くのがそもそもおかしい。「クリアは外に大きく」というのは、小学生でも習う鉄則。その直後（1分後）！ 山東右サイドを崩されボールを斜めに運ばれ、失点。パスが続くごとにマークがはがされ、最後はどフリーの選手に決められる。**勝負どころは、得点（失点）の直後にある**んですよね。山東からすれば、この追加点が本当に余計だった。その後、軽い球際で、奪えるはずのボールを取り逃がし、山東左サイドを崩され、2失点目と方向は逆だが同じパターンで、パスが続くごとにマークがはがされ、フリーで打たれ、失点。0-3。この内容で3点目は試合を決定づける3点目でしたね。その後、試合終盤、途中交代で入った**東陽の里担当 2年ザキヤマ**<sup>9</sup>が、入りたてのヘディングの競り合いで相手の頭と頭が衝突し、両者出血。「(ヒロに続き) 東陽の里でまたか」との思い拭えず。両者救急車で運ばれる<sup>10</sup>。せつかくピッチに立ったばかりなのに、ザキヤマ無念。その

<sup>6</sup> ボールを待ちかまえて（ボールの場所を予測して／誘導して）確保する主導権を握ったディフェンスではなく、ボールの後を追うだけの主導権を握られたディフェンスになっているということ。

<sup>7</sup> そして、その後ようやく一本目のシュート打った時、「これで一本打った」と少し安心していました。

<sup>8</sup> というか、そもそも守備においてもよく周りを観て、いろいろ情報を整理しておかないから、次起こる現象に反応できなくなる。

<sup>9</sup> 5月1日東陽の里に副審のためだけに今野と行ったあのザキヤマです（部報第4号参照されたし）。あれで東陽の里の管理の仕方を学んだザキヤマは、東陽の里担当となりました。ザキヤマは後継者を1年爪楊枝ことキムタクに指名した模様で、後述のトラブルにより、東陽の里のクロージングはキムタクが務めました。

<sup>10</sup> **結局ザキヤマ5針縫うことに。ただ意識はありましたし、ヒロの時と比べると緊迫感は低かったです。2年保護者会長の佐藤さん（ドクター）を始め、保護者の皆さまに大変助けられました。ありがとうございました。**

後再開され、東海の選手が試合に入り切れない段階で、**3年ユートによる後ろにすらすスリッ  
フヘッドに素早く反応した2年ベジが1点決め、山東も意地を見せる**も、そのまま1対3で終  
了。

東海 B は強かった。完敗、というのが率直な感想です。また出直しですね。今度はリーグ  
戦ではなく、地区新人が始まります。去年は地区大会で負け、県大会に行けない無念を味わっ  
た。今年こそ、行きたい。行かなければならない。応援よろしくをお願いします。

**9月10日(土)地区新人1回戦 VS 寒河江工業 9:30~ @山形明正 G**  
**それに勝つと同日、2回戦 VS 山形学院と山形明正の勝者 14:10~ @同上**  
**翌日の予定は別紙を参照下さい。**